

令和4年度 1学期終業式 校長講話

令和4年（2022年）7月25日

皆さん、こんにちは。

1学期の終業式となりました。1学期を振り返ってみて、皆さんはどんな4か月を過ごしましたか。

先日の翔舞祭は、感染対策をしながら、工夫して見事に自分たちの手で創り上げ成功させることができました。

また、部活動にも一生懸命取り組むことができましたし、探究学習や様々なボランティア活動、地域活動にも積極的に参加する姿がありました。

「体験」は、必ず振り返ることで、「経験」に変えることが大切です。野球のイチロー選手も「ぼくは1試合、1試合、振り返っています。まとめて振り返ることはしません」と言っています。

自分は、今日何をしたのか。何に心が動かされたのか、もしくは心が動かなかったのか。それは何故なのか。そして自分は次にどうしていったらいいのか。このような振り返りは、勉強でもスポーツでも、人生のあらゆる場面で、人の成長を大いに促進してくれます。

時には切なく、悲しい「体験」もあります。そのような体験もいつか心のエネルギーが回復できたら、「優しい自分」「人の痛みがわかる自分」として、次のステップに踏み出せると信じて欲しいと思います。

時には失敗体験もあるかもしれませんが、それも素晴らしい学びとなります。これからもいろいろな体験を通して、自分の「経験」という引き出しを増やし、自分自身の幅を広げ、アップデートしていきましょう。

さて、明日から夏休みとなりますが、8月になると長崎、広島原爆の日、終戦記念日があります。年度当初、皆さんにロシアによるウクライナ侵攻の話をしましたが、戦争は過去のものではなく、現在進行形です。戦火で失われる命や信頼関係、生活基盤、文化財や自然環境の重みははかり知れません。

日本も戦争の過去がありますが、戦争の語り部も高齢化し、残念ながら生の声を聴く機会が減っています。この地元の満蒙開拓の証言についても然りです。戦争の記憶は年月が経つにつれ、徐々に薄らいでいっていると感じます。

平和学の第一人者 ヨハン・ガルトゥング博士は「平和」は単に戦争がないことではなく、「暴力の不在」と定義します。戦争や虐殺など相手のからだや健康を傷つける「直接的暴力」がなくても、貧困や飢餓、差別、人権侵害などの「構造的暴力」がはびこる社会は「平和」ではないと言います。

人間は社会の中で生きている限り、対立や衝突は起こります。みんなそれぞれ違う考えを持っているので、お互い意見や行動がぶつかり合うこと自体、とても普通なことです。

でも、それが様々な「暴力」にならないよう大切なことは、相手を尊重し、共感しながら対話することです。お互いに考えていることをきちんと言葉にして、理解してもらえるように努力する。いろいろな人と、そして社会と折り合いをつけながら、うまく共存していくことが、平和を実現することにつながるのではないのでしょうか。

この夏、戦争に思いをはせ、それを自分事の課題まで引き寄せ、「平和とは何か？」という問いに自分なりに考えて欲しいと思います。

さて、3年生はいよいよ自分の進路実現に向けて一人一人がそれぞれの目標に向かって頑張る時期です。真向、正面から自分自身ととことん向き合いましょう。1・2年生はこれまでの学習の不足を補い2学期に備えましょう。部活動で頑張る人もいます。感染症や熱中症対策も含め、健康管理に心掛け、毎日の生活リズムを崩さないよう過ごしてください。

普段できないことにチャレンジしたり、ゆっくり自分自身と対話したり、自分の世界を広げる有意義な休みにしてください。

皆さんにとって事件、事故のないよい休みになりますように。
元気に2学期、お会いしましょう。